

大原「ふれあい朝市」から  
里の駅・オーガニックマルシェへ発展

平成21年度 採択事業



渡辺民さん

### 大原ふれあい朝市の歴史

大原の「ふれあい朝市」は、平成11(1999)年に現・株式会社大原アグリビジネス21代表取締役の宮崎さんが大原地区の農業委員に就任、地域の有志15名で「大原農業クラブ」を発足させ、元製材所で日曜早朝朝市を始めたことからスタートしました。それは大原地区にとっては、昭和40年代のヒット曲が引き金となった観光バブル、それによる大量の農業離れとその後の観光ブームの終焉、その間にすっかり放置された農地と地域疲弊から、農業を中心とした地域再生へチャレンジしてきた苦難の歴史でもありました。

平成18(2006)年からは行政による補助が始まり、大原地区は従来の寺院観光に加えて、市内から車で15分でいける「観光農村」としての地域づくりへ大きく舵取りが行われます。平成20(2008)年には補助事業の一環として地域住民らの出資によって、株式会社大原アグリビジネス21が設立、同年6月には、野菜と加工品販売の〈旬菜市場〉、農家レストラン〈花むらさき〉などを併設する観光農村の拠点「里の駅 大原」の経営がスタートします。

しかしふれあい朝市は元製材所の場所ですっかり定着し、高齢化は進むものの生産者が直接販売する大原の新鮮野菜が評判を呼び、業績は順調に推移していました。しばらく朝市は従来通り元製材所で、里の駅とは平行して行う時期が続きました。



里の駅のふれあい朝市会場

### 里の駅への移転構想

一方、大原地区では、平成18(2006)年頃から有機農業をやりたいという6組の新規就農者たちが続けて入植していました。こうした新規就農者の力を地域づくりに活かすことと、今後10年、20年後まで朝市を確実に継続発展させられる場所として、里の駅への移転で、朝市のリニューアルを図りたい、という機運が出はじめました。

ところが建坪率との関係でこれ以上、敷地内に構造物

### 農林水産物の活用

が建てられず、そこでファンドの協力を得て大駐車場に屋根などの設備を増設し、ようやく移転が実現しました。

移転に伴う難題はさらに続きます。大部分の出店者は里の駅に移転したものの、9年間続けてきた場所に愛着があり、従来通りやっていきたいという当初からの出店者が数組残ることになり、朝市が二手に分かれてしまったのです。

さらに「里の駅」の新朝市会場では、屋根は設置したものの、冬は吹きさらしで、夏は直射日光があたりました。現在は、冬場はたき火をしたり、夏場は寒冷紗などの遮光ネットで日差しをカバーするなどの工夫をしています。

「それはそれで青空市場のようでおもしろいのですが、出店者は大変です。ただ、里の駅のなかに買い物が終わったお客さんが休憩できる食堂〈花むらさき〉があり、大原の産品を常時販売する〈旬菜館〉もあり、訪れる人にとっては、やっぱり好立地なのですね。いまお客さんたちは両方の朝市を楽しみに立ち寄られているようです。ゆくゆくはいいかたちで合同できるとよいのですが」。渡辺さんは語ります。



大原の採れたて新鮮野菜が並ぶ

### 新規就農者と農業リターン者

実は渡辺さん自身もこうした新規就農者の一人です。夫と共に野菜づくりをするかたわら、里の駅のスタッフとして働いておられます。

6組の新規就農者は脱サラ組、学生時代から就農計画していた人などいろいろですが、20代後半から30代前半。経緯は異なりますが、みな農業ビジネスに未来を感じ、有機農法を实践する場所として大原に入植しました。つくっているのはハーブなどの洋野菜、京野菜、高原野菜とさまざま。もともと大原は比較的農地が狭く、多品種をつくる農業に適しているため、出荷よりも対面販売に向いている、と言います。

「せっかく野菜をつくっても販売する場所がなければ経

営は厳しいけど、里の駅の朝市が大きな支えになっています。実は大原ではかつて農地を放棄し会社勤めをしていた人が、脱サラして農業を再開する、というケースが出はじめています。昔とは逆の現象ですね。これも里の駅の朝市という拠点があったからだだと思います」。



新規就農者も多く出店

### オーガニックマルシェをめざして

「里の駅 大原」の新ふれあい朝市がめざしているのは、ヨーロッパのオーガニックマルシェです。現在、新規就農者が主に栽培する有機農法の野菜と、鯖鮓や餅、漬け物など、従来からの加工品に加えて、無添加にこだわった石窯焼きパンや天然酵母のパンなどの販売も始まっています。

「ゆくゆくは乳製品や、ハム・ソーセージなどの肉製品類、お菓子なども揃っていて、オーガニックに感心のある人や女性に訴えかけられるような展開をめざしたい」、と渡辺さん。

寒暖差の激しい地形が生んだ大原特有の野菜をブランド化させていくと共に京都市近郊にある観光農村として大原の朝市をどう特徴づけていくか。人と自然にやさしいおしゃれなオーガニックマルシェの展開が今から楽しみです。

#### 事業概要

大原アグリビジネス21

<http://www.satonoeki-ohara.com/>

代表：宮崎良三

業種：農産物および農産加工品の直売レストラン事業  
創業：平成19(2007)年 設立：平成19(2007)年  
住所：〒601-1247

京都市左京区大原野村町342  
TEL：075-744-4321 FAX：075-744-4321